

**P46c**            **すばる望遠鏡による IRC T Tau Sa-Sb の近赤外コロナグラフ撮像追観測**  
真山 聡 (総研大)、田村 元秀 (国立天文台)、林 正彦 (国立天文台)、伊藤 洋一 (神戸大  
自然)、深川 美里 (名古屋大学)、周藤 浩 (国立天文台)、石井 未来 (国立天文台)、村川  
幸史、大朝 由美子 (神戸大)、林 佐絵子 (国立天文台)、森野 潤一、大屋 真 (国  
立天文台)、他 Subaru Planet and Disk Survey Team

1982年に発見された T Tauri South は主星から  $0''.7 (=100\text{AU})$  ほど南にある Infrared Companion と呼ばれる変光星である。2.8 太陽質量程度で、最大 2 等級程度の変光を見せるこの天体は、ガスやダストの深い繭に埋もれた原始星、円盤に埋もれた惑星状天体、高い質量降着率を見せる FU Ori 型天体等々、様々な議論がされているがどれも過去全ての観測データを説明をすることは出来ていない。multiple-system で複雑な様相を成す T Tauri 型星 T Tau の近赤外における高分解能撮像観測を 2002 年 11 月、2004 年 11 月にすばる望遠鏡用コロナグラフ撮像装置 CIAO を用いて行った。明るい中心天体の影響を低減するために、直径  $0''.5-0''.6$  のオカルティングマスクを用いた。本講演では 2004 年の追観測で得られた最新データを主に報告する。2 回の観測で得られたデータから、主星 T Tau N と伴星 T Tau S、その binary T Tau Sa,Sb (separation:  $0''.09$ ) を空間的に分解し、2 年前の観測に比べ明るさと位置が変動していることが分かった。T Tau Sa に対する Sb の相対的な位置を求めたところ、Sb は Sa に重力的に bound した軌道を描いていることが分かった。また、それら二天体を測光したところ、T Tau Sa の明るさが主に変動していることから、近年の T Tau S の変光は主に T Tau Sa が原因で起こっていることが分かった。T Tau S のカラー変化を見積もり、T Tau S の変光の原因について議論する。